

両沼地方稲作情報 第3号

令和7年5月9日

発行：福島県会津農林事務所会津坂下農業普及所
" 金山普及所

(電話0242-83-2113)
(電話0241-54-2801)

J A 会津よつば 各営農経済センター、(有)カネダイ、(有)猪俣徳一商店、(有)山一米穀店、
会津宮川土地改良区、阿賀川土地改良区、会津坂下町只見川土地改良区



QRコード

会津坂下農業普及所のHPでは、これまで発行した稲作情報を掲載しております。
その他、様々な情報を発信しておりますので、お気軽にご覧ください。

URL : <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36243a/bangehukyu-9.html>

○除草剤を適期に散布し、雑草の”取りこぼし”を防ぎましょう。
○土壌還元（ガス湧き）による障害に注意しましょう。

1 気象情報（気象庁 東北地方 1か月予報（5/10～6/9））

- ・天気は数日の周期で変わってでしょう。平均気温は高い確率70%です。降水量は平年並または多い確率ともに40%です。

2 雑草対策 ※必ず使用時期、使用方法、対象草種・葉齢をラベル等で確認しましょう

- ・雑草の繁茂は稲の生育を抑制し、また一部雑草（ヒエ・ホタルイ等）は斑点米カメムシ類を誘引し、出穂後の吸汁による落等の原因となります。除草剤を効果的に選択・使用するためには、イネ科、カヤツリグサ科、広葉雑草等の発生草種を把握し、適期に除草剤を散布することが大切です。
- ・近年、春先からの高温により雑草の発生活長が早まっています。最も生育が早い雑草の葉齢を基準に散布して、“雑草の取りこぼし”を防ぎましょう。一方で、低温の場合は、雑草の発生がばらつく傾向があるため、植代から田植えまでの期間が1週間以上に及ぶような長い場合は初期剤の散布を検討しましょう。

除草剤による早期防除が重要です！

（1）イネ科雑草（ノビエ等）防除の注意点

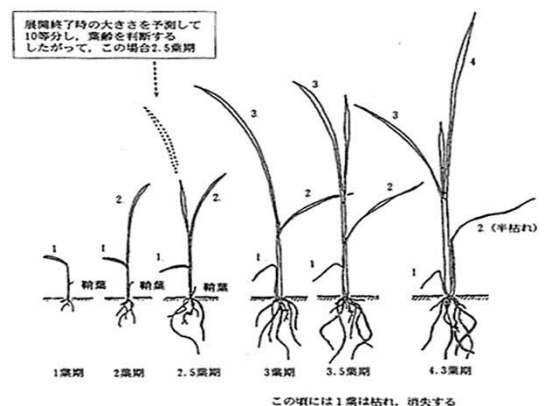
- ・除草剤によって防除可能なヒエの葉齢が異なります（例えば「移植直後～ノビエ2.5葉期」のように）。
- ・初中期一発処理剤を散布する場合は、適用時期の範囲内で、できるだけ早く散布します。

【注意】ヒエが生えてきたのを確認してからでは手遅れ場合があります。（図1）

（例えば、確認できたヒエの葉齢が2葉期の場合でも、ほ場全体としては3葉期のヒエが存在する可能性があります）。

（2）カヤツリグサ科雑草（ホタルイ等）防除の注意点

- ・ホタルイの種子は小さく、農業機械等に付着して地域のほ場に拡散する場合があります。
- ・耕耘や代かきの作業は、ホタルイが多発したほ場を後回しにしたり、作業機械を丁寧に掃除する等、地域の発生源とならないように、種子の拡散を防止しましょう。
- ・一発処理剤使用後も休眠種子から発生するため、前年発生が多かったほ場では、中・後期剤も体系的に使用して防除しましょう。（図1）



（3）広葉雑草防除の注意点

- ・平たく幅広い形をした葉身をもつ雑草のことで、コナギ、アゼナ類、オモダカ等があります。
- ・特にオモダカは、塊茎を土中の深いところに形成し、発生期間が長いことで除草剤の影響を回避します。
- ・一回の除草剤散布で完全に防除することが難しい特徴があります。前年発生が多かったほ場では、中・後期剤も体系的に使用して防除しましょう。

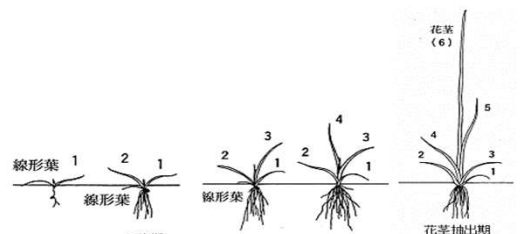


図1 ノビエ(上)及びイヌホタルイ(下)

(4) 除草剤が効果を発揮するために

- ア 田面を均平に整え、漏水防止（畔塗りの実施、2回代かき）に努める。
- イ 雑草の種類・葉齢をよく確認して、適期に散布する。
- ウ 湛水散布の場合はしっかり水管理する。

【湛水散布の水管理】

- ・散布直後に田面水が流れ出ると効果が低下し、残効期間も短くなります。
- ・散布前にしっかりと湛水し、水口・水尻をきちんと止めて除草剤を散布します。
- ・散布後少なくとも4～5日は湛水状態を維持し、散布後7日間は落水しないようにします。
- ・漏水田において水を足す場合、処理層に影響しないよう静かに入水します。

※ほ場に生えている雑草の種類・葉齢をよく確認し、効果が見込める除草剤を選択して、適切な時期・方法で使用しましょう。

- 近年、多くの水田で土壌表層が剥離し、水面に浮かぶ**表層剥離**が見られます。
- 表層剥離が多いと、幼苗の消失、除草剤成分の拡散を妨げる等の影響が出る場合があります。
- 一時的に落水し田面を干す、活着後浅水で管理する、藻類に効果のある除草剤（モゲトン粒剤等）を散布する等により対策しましょう。

3 いもち病対策

会津での葉いもちの初発は6月下旬です。移植時の箱処理剤や散布剤等で適切に防除しましょう。また、感染源となる補植用置き苗は早急に処分しましょう（図2、埋却する等）。



図2 置き苗から発生したいもち病

4 土壌還元（ガス湧き）について

(1) メカニズム

- ・湛水後、気温が急上昇し高温が続くと、鋤込まれた稲わら等の有機物が分解され、有機酸や硫化水素、メタンガス等が発生します（“ガス湧き”した状態）。
- ・ガス湧きした状態では、根は酸欠で呼吸が阻害され、水分や養分を十分に吸収できません。
- ・根はダメージを受けて根腐れし、放置すると腐敗、分げつ停止、生育遅滞、登熟期以降の秋落ちの原因にもなります。
- ・葉色が淡くなりますが、この時に窒素分を追肥すると症状悪化の原因となります。
- ・稲体が弱ることで、除草剤の薬害を受けやすくなります。

(2) 発生時の対策

- ・すぐに落水して3～5日ほど水田を干します。
- ・同時に数メートル間隔に溝切りを行い、表面排水を図るとより効果的です。
- ・これによりガスは空気中へ飛散します（水があるとガスが抜けにくい）。
- ・落水によって土壌中へ酸素が入り、土壌環境が改善されます。

※その後は入水し、有効分げつ確保までは浅水管理を基本とします。

○今年も高温が予想されます。しっかり水分補給し、熱中症に注意してください。

○適切な管理により節水に努め、用水の有効利用にご協力をお願いします。

農作業安全運動実施中！

春季3/1～5/31

安全な農作業を
心掛けよう！

